

ミニシリーズ

研修と普及をつなぐ <その1>

研修ニーズの明確化と普及活動に役立つ研修の実施～シリアにおける事例から

研修活動は、それだけが独立して存在するわけではなく、その内容に関連した業務や活動が引き続き行われることで、その成果の効果的な活用が期待できる。研修活動が、現地のプロジェクトとして実施されている場合、研修とその後の活動(Action Plan)をつなぐことは比較的容易で、研修内容に沿って活動計画を作成したり、反対に普及活動に合うよう研修内容を設定したりすることも可能である。これに対し、日本で行われる本邦研修などの場合、帰国後の研修員の活動が必ずしも保証されていないこともあるため、研修内容を活かしたつなぎ方が難しい場合が少なくない。このミニシリーズでは、研修をより有意義なものにするために、研修とその後の普及活動を“つなぐ”さまざまな仕組みや工夫について、具体例をもとに紹介していく。

第1回の今回は、現地での研修実施例として、シリアにおける節水灌漑普及プロジェクトを紹介する。このプロジェクトでは、農業用に使われる水を少しでも減らすための節水灌漑の考え方およびその技術の普及を目的とし、研修による灌漑普及員の養成を行った。研修は、灌漑普及員が節水灌漑に関して、農家が直面する問題に対処可能な能力を身につける、目標達成型の「4ステップ研修」とした。第一ステップでは、農家の現状や直面する節水灌漑の問題を把握できるように、農家調査の事例や手法を学んだ。第二ステップでは、節水灌漑施設の設計と施工及び、その運転と保全について基本的事項の研修を行った。第三ステップでは、今後の普及活動に有用な普及教材(ポスターやパンフレット)の作成を行った。第四ステップでは、研修で習得した知識・技術や普及教材を活かし、普及活動を実践するための、アクションプランを作成し、それを実施した。さらに、これら4ステップ研修のフォローアップ活動として、アクションプランの実施支援を、プロジェクトとして行った。支援アクションプランの内容は、灌漑に関する Field Day、Field Visit、セミナー、移動劇団、ポスター・コンペティションなどであった。その中から優れたものや、優先度の高いものを選択し、灌漑普及員をいくつかのグループに分

け、OJT(On the Job Training)でプロジェクトを実施した。

これまでの研修は、ほとんどが講義中心の座学で行われており、それも長年使われてきた資料を説明するだけであった。また、ほとんどの普及員は現場農家が直面している問題点について一般論的な理解しかないため、特に節水灌漑に関しては、「普及すべき技術や情報がない」、「やり方が分からない」、または「(教える)自信がない」という状況であった。しかし、本プロジェクトによる実践的な研修により、研修を土台にした具体的で実践的な対処法と経験により、普及活動の実施につなげることができた。また、これまでの各普及活動は、事前の準備もほとんどなく、場当たり的に行われていることが多かったが、本プロジェクトの普及活動では、農家のニーズに基づいて目標を定め、計画を立て、入念な打ち合わせや準備を経て実施に移る手続きに変えることで、農家のニーズに応え、なおかつ普及員の能力アップも同時に図ることができた。さらに、参加した農家の理解度評価や、各普及活動の反省会の実施などのさまざまな工夫により、これまでのシリアにおける普及活動とは違った充実した活動になった。こうした研修後の活動により、灌漑普及員としての能力はさらに向上している。

本プロジェクトでは、研修ニーズの把握 研修テーマの選定 普及員研修の実施 研修を受けた普及員による普及活動の実施 農家への普及(農家の問題点の解決)、というサイクルからなる、研修と普及を関連付けた「目標達成型研修普及方式」を確立することができた。この方式におけるポイント(特長)は、実際に普及現場で必要とされ、使える知識や技術を研修で身につけさせ、それらを活かす「場」や「機会」をフォローアップという形でプロジェクトが提供した、という点である。

今後は、研修活動における「目標達成型研修普及方式」の定着と、他地域への展開が課題である。さらに、本プロジェクトのテーマは灌漑であったが、他の普及テーマでも同じ手法が適用可能であるだろうし、シリア側も「普及は灌漑だけを扱っているのではない」という考え方から、こうした方式を灌漑以外のテーマにも応用していくことが必要と思われる。



灌漑試験場での研修風景



問題分析で農家の問題点検討



普及活動～節水灌漑の紹介



普及活動～農家との検討